

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成27年3月16日発行
第12号



第54回冬山講習会・第52回登山指導者講習会が、1月31日(土)から2月1日(日)にかけて富士山御殿場口双子山周辺で実施された。

温かい晴天に恵まれ積雪もあり、絶好の冬山訓練日となった。

参加者は一般の初級1名、同中級4名、高校生(高体連)6校71名、指導者講習会は高体連顧問10名講師本部役員を合わせ107名であった。

開講式では、滝田会長、静岡県教委スポーツ振興課 村田指導主事の挨拶の後、工藤指導委員長か

二日目は、昨夜の冷え込みで早朝の雪は固く締り、雪上歩行にはまずまずのコンディションで双子山を目指した。

幕営地から車道を進むが、日中の融雪により凍結して居る所があり気の抜けない歩行であった。つば足、キックステップの訓練を行いながら雪上



の歩行に慣れていく。双子山の裾に近づくとき富士山からの強風に迎えられる。

双子山斜面の雪は、サングラフト状態のためキックステップは快調に効く。ここで、キックステップによる直登、直下降、斜登高、トラバース等の訓練、アイゼン歩行、ピッケル無・ピッケル使用の滑落停止などの講習をした。手袋をしたままのアイゼンの脱着に時間のかかる人が見受けられた。11時過ぎに訓練を終了し幕営地まで下山し、閉講式を行い2日間の講習

会を終了した。この訓練は、初歩であることを念頭に、繰り返し練習し、習った技術を確実に自身のものにするようにして欲しい。

今回は、女性指導員2名が初デビューし、熱心に指導していた。

岳連行事を進めるうえで多くの指導員が必要となる。岳連加盟団体の方々が公認指導員資格の取得にチャレンジしていただきたい。(前川)

2月5日、日本青年館ホテルの会議室で平成26年度代表者会議が開催された。

最初に神崎会長から、今年度から、(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部が加盟し、48加盟団体としてスタートした。これを受けて、昨年8月神奈川県箱根山域で開催された「第58回全国高等学校登山大会」に役員を派遣し、高校生の登山大会を視察した。

懸案の「登山部」の各委員会を統合して「安全教育委員会」と「環境委

新規事業は、「山の日」制定記念事業、指導・遭対委合同研修会、ボルドリング日本ユース選手権2015、UIAA登山委員会の開催等であった。最後に、各連盟の近況報告をし終了した。(滝田)

員会」に統合し、27年度から新体制に移行するために、「登山部統合準備委員会」を設置して検討してきたが、未だ結論が出ず、次年度の組織運営に支障をきたしている。

また、これまで関係機関・団体と連携しながら取り組んできた「山の日」制定の祝日法案は国会で可決され、平成28年8月11日から「山の日」(国民の祝日)として制定された。と挨拶があった。

議案は報告事項のみで、26年度事業経過報告、同会計中間報告、27年度事業計画案、同収支予算案、26年度山岳共済会事業経過報告、27年度山岳共済会事業計画案及び予算案、山岳遭難捜索保険、全国「山の日」フォーラム54回全日本登山体育大会であった。

雪上技術の基本習得 冬山講習会、登山指導者講習会を開催

この訓練は、初歩であることを念頭に、繰り返し練習し、習った技術を確実に自身のものにするようにして欲しい。

今回は、女性指導員2名が初デビューし、熱心に指導していた。

岳連行事を進めるうえで多くの指導員が必要となる。岳連加盟団体の方々が公認指導員資格の取得にチャレンジしていただきたい。(前川)

11月常任理事会

11月17日(月)静岡労働会館で常任理事会が開催された。会長他16名の出席者であった。

会長挨拶

① 国体の成績、成年男子3位、高校男子9位と頑張った。

② 少年少女登山教室、参加者が少なく今年中止した、関係者への謝辞。

③ 竜爪山岳競技会は、台風でコースが崩壊したため今年度は中止する。

④ 個人会員制度については、別途報告する。

(1) 報告事項

① 指導委員会
・ 指導員養成講習会、9月28日、10月25、26日に9名参加で実施した。

② 国体委員会
・ 長崎国体10月17、19日実施、少年男子はボルドリング9位・リード14位予選敗退。成年男子はボルドリング33位・リード7位で決勝進出、決勝は総合3位と健闘した。

・ 高校クライミング大会の県代表決定、県大会上位2名と推薦で計7名

2月常任理事会

2月23日(月)静岡労働会館で常任理事会が開催され、16名が出席。

滝田会長挨拶

度重なる大雨で登山道が崩れたため竜爪競技会が中止になったが、その他の26年度行事はほぼ予定通り開催され、大きな事故もなく終了することができた。このことについて謝意が述べられた。

各委員会の事業報告

① 26年度冬山講習会、指導員検定について(滝田)
・ 1月31日(土)と2月1日(日)富士山御殿場口周辺で実施。冬山講習会は76名の高校生の参加があった。2日目は風が強く上塚に登るのは厳しかったので下塚の斜面で雪上訓練をした。指導員検定は9名が参加し、7名が合格。

② ボルドリング競技会について(諸戸)
・ 2月11日(水)、袋井市のプラネットで開催し69人が参加。

③ レスキュー講習会について(堀内)
・ 1月24日(土)、興津

5月9日(土)にもくせい会館にて実施。それに先立ち第1回理事会は4月13日(月)労働会館にて実施。1週間前の4月6日までに資料を提出。

を指導委員会で行う。C 会費は年三千元、年途中での退会は返金無し。D 会の規約改定が必要となる。

E 個人会員制度の意見

・ 山岳保険加入は割安でメリットとして訴えるほうが良い。

・ 一般の人に対してPRを行い、安全登山の講習を進める。

・ 個人会員の募集方法の実態は、東京、大阪はホームページで募集、東京は700名大阪は200名、神奈川は不明。会費は東京は六千円、神奈川は七千円、年齢層は不明。

・ 高校卒業生で登山継続者の動向はつかんでいない。1割程度か?

・ 広報の実態は、ホームページのアクセスは1日に30回程度(静岡市岳連の例)募集方法が課題。

⑤ その他
・ 岳連の事業でやむを得ず中止(悪天候)すると赤字になる。特別会計で補填するシステムが必要。

・ 27年度スポーツクライミング養成講習会、日程の検討と参加者募集のお願い。岐阜3名、三重、愛知参加。(坂田)

生涯学習交流館で実施。初級に43人、中級に12人が参加した。

④ 26年度岳連カレンダーについて(滝田)
・ 精算書について滝田会長から説明があった。

各委員会の27年度事業計画

① 山の日に向け4団体合同のイベントを企画

② 少年少女登山教室を含め、指導委員会主催の行事は例年通り実施する。

③ 27年度スポーツフェス(塩沢)
・ 要項の説明があった。
・ 10月17日(土)と18日(日)実施、会場は川根本町、七ツ峰・天狗石山。Aコースは日帰り、Bコースは1泊2日。日没時間考慮するとAコースは8時集合とせざるを得ない。Bコースについては標高差千m程度あり、時間的に楽ではない。

・ 荒天等でやむを得ず中止に至った場合の基金の積み立て等の対策が必要との意見。

④ 27年度冬山講習会、指導員検定
28年2月6日(土)と7日(日)で実施を確認。
27年度通常総会(滝田)

・ 5月9日(土)にもくせい会館にて実施。それに先立ち第1回理事会は4月13日(月)労働会館にて実施。1週間前の4月6日までに資料を提出。

第70回国体県予選(諸戸)
・ 5月6日(水)に浜松市で実施。

・ 要項の変更 ① 日本国籍が無くても要件を満たせば参加可能。② 県代表選出は予選会免除の選手も考慮する。

個人会員対象の各種講習会について
・ 一般の参加希望者(会員ではない)も基本的には受け入れる。個人会員と一般の参加希望者では各講習会の参加料に差をつける。

・ 会場は事務局で一括して手配する。

・ 年間の6つの講習すべてを記載したパンフがほしい。

・ パンプは山の店など、登山者が足を運びそうな場所に置く。

・ 近隣の山岳会を紹介する。(清水)

・ 5月9日(土)にもくせい会館にて実施。それに先立ち第1回理事会は4月13日(月)労働会館にて実施。1週間前の4月6日までに資料を提出。

第70回国体県予選(諸戸)
・ 5月6日(水)に浜松市で実施。

・ 要項の変更 ① 日本国籍が無くても要件を満たせば参加可能。② 県代表選出は予選会免除の選手も考慮する。

個人会員対象の各種講習会について
・ 一般の参加希望者(会員ではない)も基本的には受け入れる。個人会員と一般の参加希望者では各講習会の参加料に差をつける。

・ 会場は事務局で一括して手配する。

・ 年間の6つの講習すべてを記載したパンフがほしい。

・ パンプは山の店など、登山者が足を運びそうな場所に置く。

・ 近隣の山岳会を紹介する。(清水)

セルフレスキュー講習会

初級・中級に多数参加

1月24日興津生涯学習交流館で山岳セルフレスキュー講習会が初級・中級の2クラスで開催された。受講者は56名、講師等を合わせて合計78名と多数の参加があった。

初級は多目的ホールで消防署山岳警備隊及び救急隊員による講習が行われロープワーク、負傷者の搬出方法、AEDの使用について学んだ。

ロープの結び方はイトノット、ブルージック等だが、あらためて結んでみると、結び方に苦労している人が多かった。時々練習して緊急時に即



使えるようにしたい。

登山中に発生した負傷者の搬出方法についてはロープを使って負傷者を背負う方法、ザックと雨具(ウエア)を使って負傷者を背負う方法の2つを習った。さらに、ザックとストックと雨具等を使用した応急担架を作り、実際に負傷者を搬送し違いを体験した。

AED使用による救急法は、山小屋に備え付けられているところが増えていることもあり、全員が真剣に練習をした。

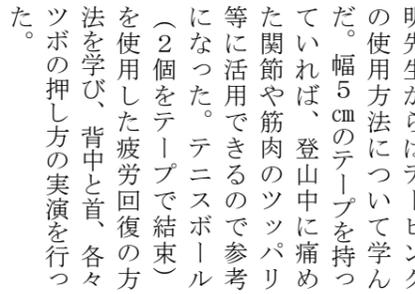
中級は交流館横の公園で指導委員長ほか2人の指導員による講習がおこなわれた。

登攀中のセルフレスキュー方法(セカンドの滑落時)について、公園斜面と手摺りを利用して、公園斜面と手摺りを利用して、公園斜面と手摺り、2人一組でセルフレスキーと仮支点にロープを掛け、確保器をハーネスにセットする。自己確保を行い滑落者側のロープにブルージックを用いて、

仮支点に引く力を逃す方法を習う。さらに、シングルロープとダブルロープでの仮固定の違いを体験した。

午後は、初級・中級合同で講習をした。

新しい登攀器具の紹介と使用方法について説明と簡易ハーネスの作り、胸部又は腰部で支える2例を練習した。



県警の真田元山岳警備隊長から最近の山岳遭難事故例と対策についての講話があった。

- 山に行くときは少なくとも家に、行先 経路(登山口/下山予定)等を置いて行くこと。
- 最近のヘッドライトの特性についての解説があった。

第38回自然保護委員総会

UAAA創立20周年と連携し国際交流

11月22日(土)〜24日(月)広島市文化交流会館において、日山協の第38回自然保護委員総会が「山と自然の聖地を訪ねて」をテーマに全国から90名が参加し開催された。

目的は、在来の自然保護委員総会を継承し、総合的・全国的な新しいタ



り、事前のバッテリーのチェックは必要とのこと。

登山届と遭難時の連絡は、当事者と本人が直接警察署等にするよう注意が有り、山を知らない家族等からの又聞き通報は、「時間と経費のロス」ですと語った。(前川)

イブの集いを開催する。併せて、アジア山岳連盟(UAAA)創立20周年記念事業と連携し、アジア諸国との交流を図りつつ、日本の自然保護の情熱を各国に伝えるというものであった。

22日開会式が14時から行われ、引き続き総会が行われた。総会では、山岳の自然環境の保全についての現状と課題の討議が行われた。

(1)平成25年度〜26年の報告

自然保護の啓発、自然保護指導員制度の推進、環境省自然公園指導員制度への協力、山岳自然保護関係団体と連携した自然保護活動の推進等の報

告があった。

(2)参加28都道府県の報告

活動は、観察会や清掃登山、登山教室等であったが、鹿等の有害動物が増殖し、高山植物の食害に苦労している報告が多かった。



23日は、平和記念公園で「山岳平和祭」を行い、UAAA創立20周年記念事業の国際山岳フォーラムが「登山と山岳自然保護」をテーマに各国自然保護団体から、報告、意見発表があった。日本からは、富士山のトイレ改善の経過報告があった。

24日は、自由参加で厳島神社参拝と弥山の登山が行われた。(豊田)

ボルダリング競技大会

優勝 男子山根翔太(浜松日体)

優女子中村祐香梨(浜松日体)

第8回静岡県高校ボルダリング競技大会が、2月11日(水)に袋井市のプラネットクライミングジムで8校選手69名(男子51名、女子18名)の参加を得て行われた。

予選は、1時間40分で男女共通の12課題(2級から7級)のセッション形式で行われ、男女とも上位の6選手が決勝に進んだ(全完登は男子山根中西の2名、女子は中村の1名)。

ルートセット後、決勝が男女別ルートで4課題4分間隔のベルトコンベア方式で行われた。まず女子は、2/3級〜4級で中村が余裕をもって完

登。同校の北脇が怪我で参加してはいないが、全課題完登の完全優勝。男子は、1級〜3級で、バ

ルジ状の課題には完登者が出ず、その他の3課題でのアテンプトの差で山根が優勝。

南ア冬山相談所開設

沼平指導センター

南アルプスの冬山相談所が、12月27日から1月4日までの9日間、沼平の指導センターに開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。

この期間の沼平からの入山者は、37パーティ(66人)で茶臼岳・上河内方面が20パーティ、聖岳・赤石岳方面が13パーティ、千枚・荒川岳方面が4パーティであった。

入山パーティは、天候が良かった割には昨年より少なかったが、相変わらず単独の登山者も多く女性も多かった。

今年の冬山は、比較的好天に恵まれたが、29日は雨から雪で強風の日が多かった。積雪は例年より多かつたため、途中で引返してきたパーティがあった。今年には事故もなく指導センターとしては平穏であった。(滝田)

全国高校クライミング大会

中村祐香梨5位入賞女子リード

浜松日体高優勝 団体の部女子

、第5回全国高校選抜クライミング選手権は12月23日、24日に加須市民体育館で行われた。静岡県

からは男子が浜松日体高校の鈴木、伊藤、山根の3名、女子は浜松日体高校の中村、北脇、高柳、

た。感謝申し上げたい。結果は次の通り。

- 男子1位 山根翔太(浜松日体高)
- 同2位 田村祐人(富士宮西高)
- 同3位 河合康太(浜松日体中)

- 女子1位 中村祐香梨(浜松日体高)
- 同2位 勝本真衣(富士宮西高)
- 同3位 宇川未姫(富士宮西高)
- (諸戸)

富士宮西高校の村野の4名が参加した。

23日に行われた予選では、女子は中村が3位、村野が17位、北脇が25位となり予選を通過。男子は鈴木が26位でただ一人予選を通過した。

24日の準決勝では男子は下部から厳しい設定になっており、鈴木は22位で敗退。鈴木は受験勉強のプランクから完全に立ち直っておらず、持久力が昨年よりも落ちているようであった。

女子の準決勝は下部はバランス系、上部は遠くで力のいる設定になっており、力のいる部分にはいつてから、北脇、村野ともに力尽き、それぞれ15位、12位と準決勝敗退した。

決勝には準決勝4位の中村1人が進出した。女子決勝ルートは出だしから少し思い切りのいるルートで、かつ左右にくねくねと曲り、13mの加須の壁を目一杯使ったスタミナと保持力、バランス力の必要な設定になっていた。

中村は上部にさしかかった34+で惜しくもフォー

ルしたが、5位入賞となりワールドユース級の力を示した。

その結果団体の部で、浜松日体高校は女子が優勝、男子も3位に入賞し、昨年の男子団体優勝に引き続いでの快挙となった。

静岡県からの出場選手は、本人たちはそれぞれ悔いもあるだろうが、今持っている力は全員ほぼ出し切ったのではないかとと思われる。来年度以降も団体やユースの大会で活躍が期待できる選手も多く、今後が楽しみである。(難波)

学校別成績

男子リード		女子リード	
1位	県立久喜高	埼玉県	浜松日体高
2位	県立防府高	山口県	県立佐世保東翔高
3位	浜松日体高	静岡県	県立多久高
4位	遠軽高	北海道	大村高
5位	県立大村高	長崎県	南光学園東北高